

出会いとふれあい、感動体験

「ふくち・カメラリポート」
町を彩る文化
体験フォト
アルバム



文化の催しには、たくさん
の発見と出会いがある。そこは興味津々な子どもたちにとって貴重な学びの場。今まで知らなかった人、もの、事との出会いが、気づきや体験、学びへとつながっていった。この秋、町を彩った文化の場では、参加しただれもが何かを見、何かを感じ、何かに触れた。町中のすべての会場が、子どもたちにとって体験の舞台、大きな大きな先生だった。

海を越え、やきものを通じ、心通わせた3日間

子どもたちの日韓文化交流

町の陶芸文化は韓国から渡来し、1602年この地に宿った。今は未来を担う子どもたちが「異文化」をテーマに交流している。上野焼開祖・尊楷ゆかりの地である韓国泗川市・旧赤池町との交流は、4年前の上野焼400年祭をきっかけに始まった。以来交互に訪問し、今年は泗川市三成初等学校から22人の児童が来町。10月3日、町内の児童21人が、事前に習った韓国語を駆使して出迎えた。4百年以上前の「コミュニケーションツール」上野焼体験で、初日から不思議とうち解けた。心通わせた3日間を終え、子どもたちは涙の別れで再会を誓った。海を越えて実現した友情と体験はこの先の人生の中で、大きな糧となるに違いない。かつて近くて遠い国と呼ばれた韓国が子どもたちの身近に、心の中で息づいている。

1「初めまして」これから3日間の行動を共にするグループに分かれ、初のご対面。福智町（左）と泗川市の児童がガッチリと握手。2自分の名前を成形した器に彫り込んでいく。3上野焼窯元の手はどきを受けながら器を成形。4手ひねりや手ろくろを使った共同作業で、思い思いの作品づくり。



人・もの・事との出会いと感動

福智町文化祭イベント

「イベントは楽しくなければ意味がない」ということで、お祭りの要素も併せ持つ文化祭。3会場の広場に並んだテント内では、掘り出し物のバザーやおいしそうな出店が数え切れないほど並んでいた。大道芸やコミックショー、移動動物園、囲碁や工作の体験に加え、家族連れでにぎわったヒーローショーなど、各会場で特色ある催しが時間刻みで行われた。

12「ふわふわして気持ちいいよ」と、金田会場の「移動動物園」でヒヨコちゃんとのふれあい。13赤池会場では「押し花体験コーナー」で、自分だけのオリジナルしおりを作成。14方城会場の子どもたちの人気者、ピエロのサムくんとメロンちゃん。みんなのリクエストに応じて、風船で何でも作ってしまう。

9赤池会場の「商工会ふるさとフェア」では、みんなに大人気のヒーロー「ボウケンジャー」が特設ステージで行われた。写真はステージ終了後の握手会。10次の一手を慎重に打つ、赤池会場の「囲碁体験コーナー」11「うまくすくえないよ」と思わず苦笑い、赤池会場バザーでの「ヨーヨーつり」。

カメラの向こうに 見えてきたもの

この秋、福智町で行われた文化の催しで、たくさん子どもたちと出会った。ファインダー越しに見えたのは、子どもたちの笑顔や真剣な表情、生き生きとした姿だった。

▶新町で初めて開催された福智町文化祭。音楽・芸能・創作など、幅広い分野での活動が、形になって表れた。普段は意識しない、文化という町の風土に出会うことができた。会場では、新しいものを発見し、体験している子どもたちの目がキラキラと輝いて映った。

▶町の未来を担う子どもたちが、視野を広げ、郷土に誇りを持つためには、町の文化的資源を活用した多くの出会いや体験の機会が必要になる。町の豊かな自然やはぐくまれた文化は、町を見つめ直すことで浮かび上がってくる。その一つひとつが、子どもたちの貴重な体験と学びの場になってくる。

▶古くから「聞いたことは忘れる。見たことは覚える。体験したことは忘れない」という言葉がある。「文化の掘り起こし」と「子どもたちの体験」が、これからの福智町を支える人づくりの大切なキーワードになるだろう。